

フェーズドアレイレーダー 第2回シンポジウム

－現在の利活用状況から将来展望まで－

○日時：2017年5月19日(金) 10:00～16:00 (登録不要・聴講無料)

○場所：気象研究所 講堂 (1F)

茨城県つくば市長峰1-1

交通案内：<http://www.mri-jma.go.jp/Information/contact.html>

問合せ：(Tel) 029-853-8535

○シンポジウムの概要

近年、急速に発生・発達する積乱雲により短時間でもたらされる竜巻等の突風・局地的大雨など激しい大気現象による災害が報告されています。これらの災害の軽減を目指した防災気象情報の高度化は重要な課題です。極めて高いスキャン性能をもつフェーズドアレイレーダーは2012年に登場し、これまで全国で5台が運用され、これらの現象のメカニズム解明という、気象学の基礎研究の分野でいくつかの成果が出ており、防災への応用も盛んに研究されるようになりました。さらに二重偏波機能を搭載した新しいタイプの開発が進み、観測実験を始める計画も始まろうとしています。

このシンポジウムは、フェーズドアレイレーダーに関する最新の観測成果、さらに開発や運用について情報交換を行うことを目的に企画され、今回が第二回となります。フェーズドアレイレーダーの研究開発の現状、今後どのような役割が期待されるのか、気象・工学・メーカー・防災・移動体通信等の専門家が一堂に会するこのシンポジウムで議論したいと思います。

主催：気象庁気象研究所

○講演プログラム

09:30	受付		
10:00	主催者挨拶	鈴木修	気象研究所 気象衛星・観測システム研究部長
第一部 観測成果・測定技術			
10:10	気象研究所における Xバンドフェーズドアレイレーダーを用いた研究 -大気現象の新しい理解-	足立 透	気象研究所 気象衛星・観測システム研究部 主任研究官
10:30	千葉に設置したフェーズドアレイ気象レーダで観測された 2016 年 8 月 4 日のガストフロント	諸富和臣	日本無線 研究所 研究開発部 センシンググループ
10:50	フェーズドアレイ気象レーダーのリアルタイムデータ品質管理	佐藤晋介	情報通信研究機構 電磁波研究所 研究マネージャー
11:10	フェーズドアレイ気象レーダに対する適応型信号処理手法の検討	菊池博史	首都大学東京 システムデザイン学部 システムデザイン学科 航空宇宙システム工学コース 特任助教
12:00	昼休み	※気象研究所には食堂がありませんのでご留意願います。	
第二部 実利用・防災への応用			
13:00	XRAIN を活用した PAWR の逐次的 ZR 推定手法について	吉田 翔	株式会社 気象工学研究所 技術グループ 主任
13:20	高速スキャンデータを利用した個々の積乱雲の発達予測手法の開発 -積乱雲内の浮力推定および予測への利用法-	清水慎吾	防災科学技術研究所 水・土砂防災研究部門 主任研究員
13:40	3D 雨雲ウォッチ実証実験 2 年間の振り返り	小池佳奈	エムティーアイ ライフ・エンターテインメント事業本部 スペシャリスト
14:00	休憩		
第三部 新技術の開発と将来展望			
14:20	フェーズドアレイ気象レーダの概要と今後	牛尾知雄	首都大学東京 システムデザイン研究科 航空宇宙システム工学域 教授
14:40	フェーズドアレイ気象レーダの開発	水谷文彦	株式会社東芝 小向事業所 電波応用技術部 参事
15:00	SIP 豪雨竜巻における MP-PAWR の利用について	高橋 暢宏	名古屋大学 宇宙地球環境研究所 教授
15:20	Cバンド二重偏波フェーズドアレイレーダー -将来の気象庁レーダーに向けた課題-	楠 研一	気象研究所 気象衛星・観測システム研究部 研究室長
15:40	総合討論		